

2020. 9. 7

# 9月例会

日時 令和2年9月7日(月)

テーマ 野生化するイノベーション

講師 早稲田大学商学学術院教授

清水洋氏

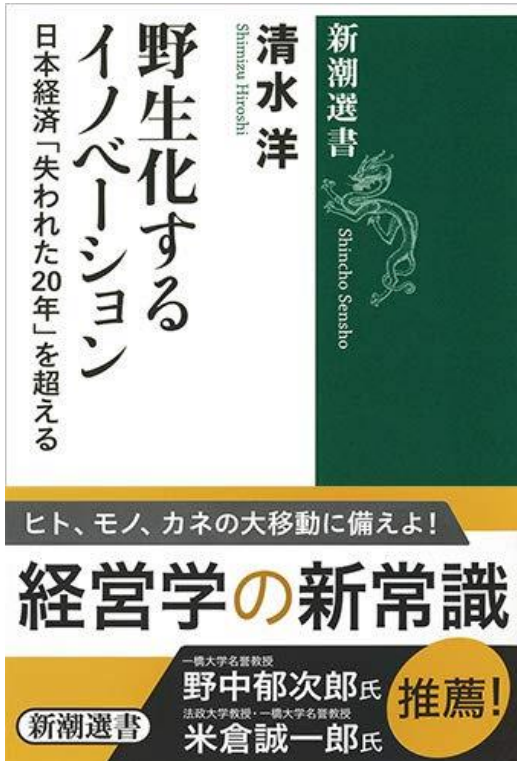


清水洋氏

## ■ 略 歴

1997年中央大学商学部卒業、1999年一橋大学大学院商学研究科修士課程修了、2002年ノースウエスタン大学歴史学研究科修士課程修了。2007年、ロンドン大学ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンスよりPh.D.(経済史)。アイントホーヘン工科大学ポストドクトラル・フェロー、一橋大学大学院イノベーション研究センター教授を経て現職。

『ジェネラル・パーパス・テクノロジーのイノベーション:半導体レーザーの技術進化の日米比較』で日経・経済図書文化賞と高宮賞受賞。



野生化するイノベーション: 日本経済「失われた20年」を超える, 新潮社 (2019/8/21)



ジェネラル・パーパス・テクノロジーのイノベーション - 半導体レーザーの技術進化の日米比較, 有斐閣 (2016/3/31)

# 10月例会

日時 令和2年10月13日(火)

テーマ IoTの革新 日本に好機

講師 慶應義塾大学教授 慶應義塾常任理事

國領 二郎 氏



## 國領 二郎 氏

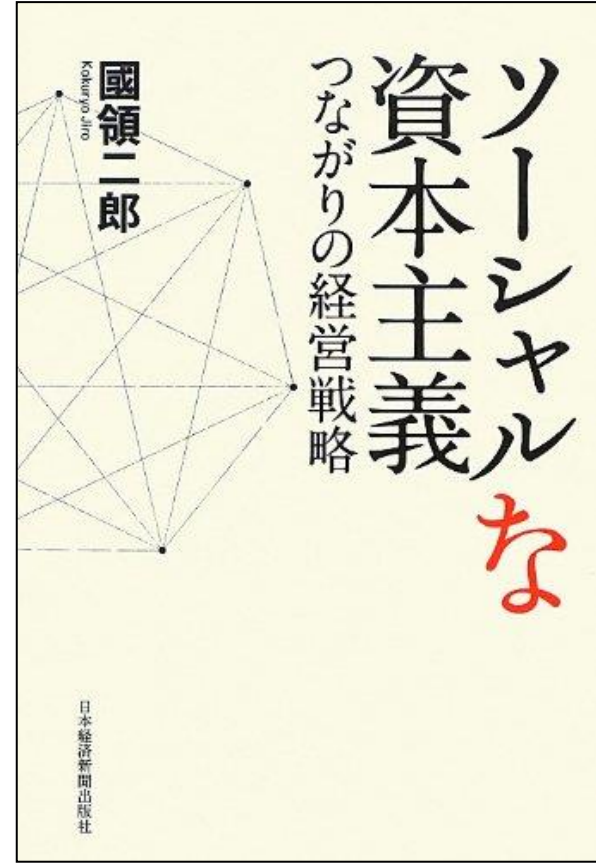
### ■ 略 歴

1982年東京大学経済学部卒。日本電信電話公社入社。92年ハーバード・ビジネス・スクール経営学博士。93年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授。2000年同教授。2003年同大学環境情報学部教授などを経て、2009年総合政策学 部長。2005年から2009年までSFC研究所長も歴任。2013年より慶應義塾常任理事に就任。

主な著書に「オープン・アーキテクチャ戦略」(ダイヤモンド社、1999)、「ソーシャルな資本主義」(日本経済新聞社、2013年)。



経済教室, 5Gが開く未来(上)IoTの革新 日本の好機, 日本経済新聞朝刊 (2019/12/3)



ソーシャルな資本主義, 日本経済新聞出版社 (2013/3/16)

# 11月例会

日時 令和2年11月10日(火)

テーマ 世界的潮流から見た昨今の日韓関係

・ポストコロナの世界秩序と新型コロナウイルスの多角的影響

講師 青山学院大学 地球社会共生学部 教授

熊谷奈緒子氏

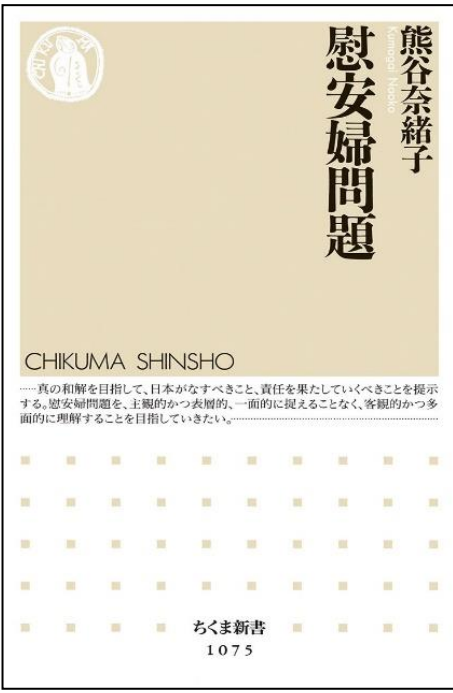


熊谷奈緒子氏

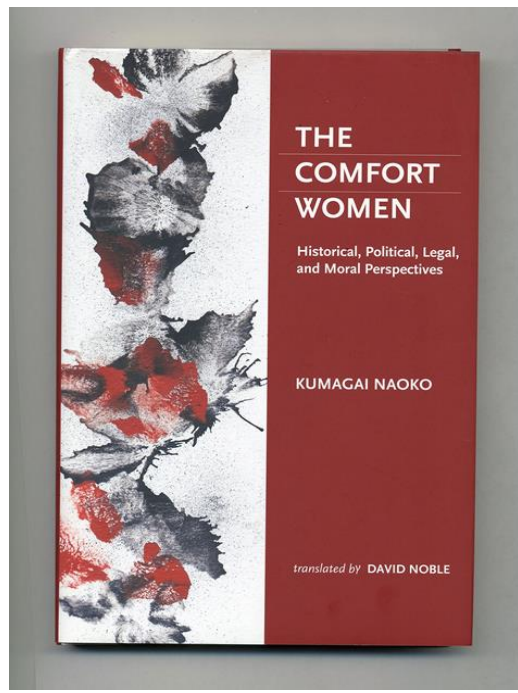
## ■ 略 歴

国際関係論。国際基督教大学大学院修士課程修了。ニューヨーク市立大学大学院で政治学博士号を取得。国際大学大学院国際関係学専任講師等を経て2020年4月より現職。特定非営利活動法人 日本国際平和構築協会 副理事。専門は、国際関係学、国際機構論、国際紛争解決論、人権、人道法、和解学、慰安婦問題、戦後補償問題。2016年に中曽根康弘賞奨励賞受賞。

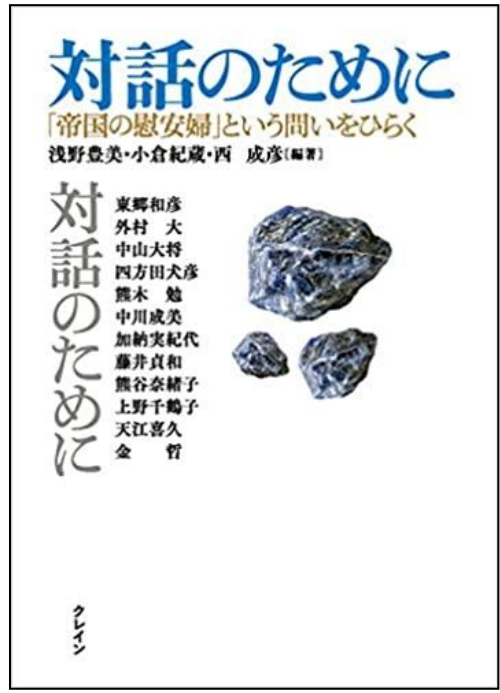
主な著書に『慰安婦問題』(英語版 *The Comfort Women: Historical, Political, Legal, and Moral Perspectives* (I-House Press), 長銀国際ライブラリー叢書)、『対話のために』(「朝鮮人『慰安婦』をめぐる支配権力構造」担当、クレイン、2017年)、『日米同盟と東南アジア』(第3章「タイの人身取引対策に対する日米の支援」担当、千倉書房、2018年)など。



『慰安婦問題』(ちくま新書、2014年)



*The Comfort Women*, I-House Press, 2016.



『和解のために』(クレイン、2017年)

日時 令和2年12月9日(水)

テーマ 戦国大名の経済学

・グローバル化の影響・世界経済への衝撃

講師 千葉経済大学経済学部 准教授

川戸貴史氏



川戸貴史氏

■ 略 歴

一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程単位修得退学。博士(経済学)。一橋大学特任講師等を経て現職。ケンブリッジ大学 アジア・中東学部 客員研究員を歴任。専門は、貨幣経済史。

著書に『戦国期の貨幣と経済』(吉川弘文館)、『中近世日本の貨幣流通秩序』(勉誠出版)等。

戦国大名の経済学

川戸貴史



1回の合戦の費用、縮めて1億円!!

銭がなくて  
は戦はできぬ

講談社現代新書

戦国大名の経済学

川戸 貴史著

戦国大名の経済学  
川戸貴史



貨幣経済史を専門とする研究者が、15世紀後半以降の戦国大名たちがどのように領国経営に当たったのか、明らかにする。当時の貨幣価値を現在と比較した上で記述を進めているので事情がつかみやすい。例えば、東北の大名、伊達成宗は所領支配を安定させるため、京に上った際、足利義政・日野富子夫妻らに賄賂の金品を贈った。その総額は現在の価値で約5億円に上るといふ。織田信長による安土城築城の総経費については豪華な内装もあわせると100億円近くを上ったとはじき出す。

グローバル化の影響も注視

信長というと、楽市楽座を押し進め、経済政策でも改革者のイメージが強い。だが、旧来のシステムを温存することも少なくなく、「現実的な政策を的確に選択していた」著者はみる。大名たちが苦慮したのが貨幣の扱いだ。供給源である中国の政情不安などで銭不足がたびたび生じた。その対策として出された撰銭令の経緯や効果についても詳しく解説する。各大名の鉱山開発や貿易政策にも多くの紙幅を割いた。戦国期の日本において「世界経済に衝撃を与えた」のが石見銀山の開発だった。世界は史上初めて「グローバル化」の時代を迎えていた。その時、日本国内で覇を競っていた戦国大名たちも世界経済の動向とは無縁ではいらなかったのだ。(講談社現代新書・1000円)

日本経済新聞(2020年8月15日朝刊)

戦国大名の経済学(講談社現代新書),講談社(2020/6/17)